

## 特集1

## 「岡部隕石」記念碑建立への道のり

## ～クラウドファンディングによる60年記念イベント～

前田知絵（古天文愛好家） 写真提供：飯島裕

岡部隕石は昭和33年（1958）に落下した隕石で、60周年となる平成30年（2018）にクラウドファンディングによる記念碑建立が実現した。中心となって活動したのは私・前田知絵と写真家の飯島裕で、雑誌『星ナビ』（アストロアーツ）の外部スタッフでもある。その経緯を紹介したい。

## 1. 岡部隕石の概要

岡部隕石は1958年11月26日の午後3時過ぎ、岡部村（現在の深谷市今泉）で畑仕事をしていた山崎政雄さん（当時20歳）と父・吉作氏の間で鋭いうなりをたてて落下、地面に穴を空けた。翌日、吉作氏が80cmほどの深さから黒い石を掘り出し、昭和34年（1959）の春に政雄さんが国立科学博物館に持参、隕石と認められた（H5コンドライト/194g）。日本にとって戦後初の落下目撃隕石であり、人の至近距離に落ちた珍しい隕石でもある。鑑定にあたった村山定男氏は、後にこう語っている。

「隕石は千に三つ、万に八つしか本物は無い。自分が鑑定した数千個のうち、本物は岡部と芝山（千葉）の2個だけだった」

隕石発見がニュースになると、高額で買い取



国立科学博物館で展示中の岡部隕石

りたいという申し出もあったそうだ（日本にとっては南極での大量発見以前で、隕石が非常に少ない時期だった）。しかし吉作氏は「売ってお金になったとしてもそれきりだから、国に役立ててもらって土地の名前が残ったほうがよい」と、国立科学博物館への寄付を決めた。

一部は海外の研究機関に提供され、現在は半分ほどの大きさとなって国立科学博物館に常設展示されている。

## 2. 偶然の出会い

「岡部隕石の落下地点を探しに行こう」



隕石落下時の山崎さん父子の位置  
（1959年／村山定男氏の現地調査ノートより）



隕石発見の第一報（1959年3月4日読売新聞）と  
村山定男氏（川村晶氏提供）

2016年夏、すべては飯島の一言から始まった。彼は深谷市の隣の熊谷市出身で、自分が生まれる約1か月前に落下した岡部隕石が少年時代から気になっていたそうだ。「記念碑らしき標柱の写真を昔、本で見た気がする」とも言う。そこで、同窓会で帰省する際に同行して探してみることにした。

しかし、2016年当時は岡部隕石についての情報はほとんどなく、落下地点の「貉山」という地名が唯一の手がかりだった。ネットで調べると、「貉山古墳群」という深谷市の発掘調査資料があったので、その地図をたよりに、目星をつけた地点に行ってみた。

この辺りかな、という場所は老人ホーム「エンゼルの丘」駐車場で、辺りは畑と雑木林ばかり、飯島の言っていた標柱らしきものも見当たらない。地元の人に訊いてみようと思い、農作業中の男性に声をかけた。

「すみません、“むじな山”ってこのあたりですか？ このへんに昔、岡部隕石というのが落ちたと思うのですが……」

すると、驚くべき答えが返ってきた。

「はい！私が発見者です！」

なんと、声をかけた相手が岡部隕石の発見者・山崎政雄さんその人だったのだ。思いがけない出会いに私も飯島も大興奮、当時の話など聞いておおいに盛り上がった。

「隕石が落ちたのはどのあたりですか？」と

訊くと、さらに驚くべき事実が判明した。

「こちらです」と案内された場所には、塩ビ管が埋めてあった。なんと山崎さんは、隕石の正確な落下地点を58年もの間、保存していたのだ。

現地は老人ホームが建設される際に盛り土され、落下地点は数メートル地下になったが、造成の際、工事業者に頼んで4mほどもある塩ビ管を埋めてもらったのだという。

「以前、個人で記念碑を建てようって考えたこともあったんです。知人の石屋さんがデザインも考えてくれてね。でもその人が、『何かお上のお墨付きが欲しい』と、博物館に寄贈した経緯なんかを書いてもらって刻みたいと、こう言うわけです。村山先生のご存命中にお願いできれば良かったんですが……。そんなことを考えているうちにその石屋さんも亡くなっちゃって。地元の郷土文化会でも話題に出たことがあったけど、資金が無いつて実現しなかったんです」

山崎さんの話を聞きながら、私は大変な役割を背負いつつあることを自覚していた。

この落下地点を後世に伝えなければならない。しかし、今この場所にあるのは科学的な価値ではなく、歴史的な価値である。それを伝えられるのは、古天文を得意とする私しかいないのではないか？

2年後の2018年秋には隕石落下から60年、山崎さんが80歳の節目を迎える。このタイミングを逃すわけにはいかない。



山崎政雄さんと落下地点を示す塩ビ管



山崎さんと私、足下に塩ビ管（2016年）

### 3. さまざまな働きかけ

この出会いをさっそく『星ナビ』誌上で紹介した [1] [2]。雑誌を作る側としては、できれば地元の人に記念碑建立へ向けた活動をしてもらい、それを後押しする形が望ましかったが、「頑張ってください」「応援してます」というコメントが届くばかりで、なかなか事態は進展しそうにない。やはり私がやるしかない、と腹を決め、3つの目標を立てた。

- ① 落下地点に記念碑を建てる
- ② 記念イベントを開催する
- ③ 本物の岡部隕石の里帰り展示をする

手始めに深谷市役所に向けあってみたが、落下地が山崎さんの私有地であることや、セキュリティの確かな展示施設がないことなどから、なかなか芳しい回答は得られなかった。

教育委員会では「隕石の科学教育における役割」について熱弁をふるったつもりだったが、「はやぶさ2が小惑星に行っているから、隕石のイベントやりましょう」といっても理解してもらえない。自分の口下手が悔やまれた。

それでも熱意が通じたのか、イベント会場は埼玉工業大学の協力が得られる見通しとなり、資金面は深谷市の協働推進課から「ふるさとクラウドファンディング (FAAVO)」を紹介してもらった。これは市にとってプラスとなるプロジェクトを成功させると、手数料の一部に補助金が出るというもの。オールオアナッシング方式（目標金額を達成できなければ失敗）で不安はあったが、市の広報紙などで告知することもできる。岡部隕石を地域の人に改めて知ってもらうには良い方法かもしれないと決意した。

### 4. クラウドファンディング発足

「ふるさとクラウドファンディング」は大手キャンプファイヤー傘下のサイトで、ノウハウを持つスタッフが企画をチェックしてくれる。

個人の熱意に対して支援金がつくという仕組みや、リターン（返礼品）は市販品ではいけないことなど、色々なアドバイスを受けながら、内容を次のように決定した [5]。

#### ■目標金額

65万円で記念碑建立（プロジェクト成立）  
さらに100万円を超えると記念イベント開催

#### ■募集期間

2018年8月6日～9月30日（56日間）

#### ■支援コースと返礼品

（金額が上がるごとに下位の返礼品も追加される）

- ◇ 3,000円…ポストカード
- ◇ 5,000円…+飯島裕 限定卓上カレンダー
- ◇ 1万円…+記念碑に名前を掲載
- ◇ 3万円…+地酒2本セット（限定ラベル）
- ◇ 5万円…+地酒5本セット（限定ラベル）
- ◇ 10万円…+岡部隕石レプリカ&除幕式参加

手数料や返礼品の代金・送料などを含むとギリギリの金額設定で、日本酒ラベルや隕石レプリカなどはほとんど手作りとなったが、私も飯島も芸術大学出身、デザイナーとカメラマンであることが少なからず役に立った。

『星ナビ』での告知などの結果、全国の100名を超える方々から支援をいただき、2か月弱で1,401,000円、目標を大きく上回る215%の資金調達に成功した（なおFAAVOスタッフからは「ツイッターなどでの告知が大事」と言われていたが、私も飯島もSNS音痴、支援者には高齢者が多く、SNSをほとんど使わずにやり遂げたというのも特筆すべき点だろう）。

記念碑建立とイベント開催はめでたく決定したものの、プロジェクト締切時点（9月30日）で11月のイベント予定日まで2か月を切っており、ここから多忙を極めた。会社勤めの傍ら、あちこちから「段取りが悪い」と叱責されながらの返礼品対応やイベント準備には泣きそうな思いもしたが、過ぎてしまえば良い思い出である。

# FAAVO「岡部隕石の落下から60年！記念碑建立とイベントで世代を超えた地域交流を！」

<https://camp-fire.jp/projects/view/289313#pj-single-nav>

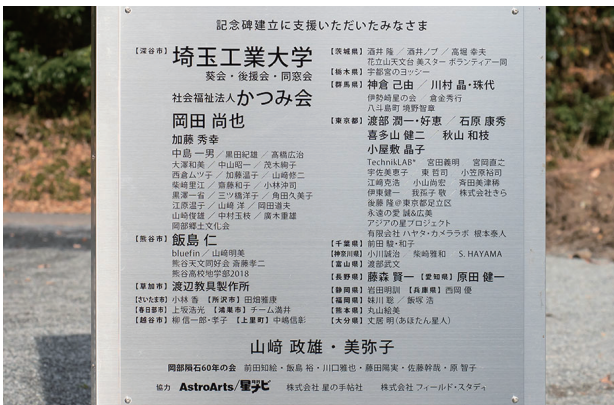


3,000円●ポストカード

返礼品の定番はお礼のメッセージ。

5,000円●飯島裕卓上カレンダー

限定カレンダーは飯島が自費で制作した。



1万円●記念碑に名前を掲載

プロジェクトのイチ押しコース。全国の約100名から支援をいただいた。



3万円●地酒2本セット（限定ラベル）

深谷市の丸山酒造（株）に協力を頂いた。

5万円●地酒5本セット（限定ラベル）

「瞬喜道」は埼玉工業大学の学生が造る日本酒。



10万円●岡部隕石レプリカ&除幕式参加

山崎さんが科博から贈られたレプリカを複製。重さをピッタリ194gにするため工夫を凝らした。



イベント告知ポスター

## 5. 記念碑建立

2018年の11月25日（日）の朝、60年前を思わせる穏やかな晴天のもと、ついに記念碑建立が実現した。

除幕式に参加できる「10万円コース」の支援者は5人。そのうち4人は埼玉工業大学の関係者などこちらから協力をお願いした方々だ。しかしただ一人、O氏という若い男性がフリーの立場から支援してくれた。聞けば地元の天文ファンで、昔から岡部隕石を気にかけていたのだという。活動の趣旨に賛同してもらったとはいえ、高額の出費をいただいたことは感謝に堪えず、このような思わぬ応援が得られるのもクラウドファンディングの良さであると実感した（なおO氏には特別に前夜懇親会に参加いただき、親睦を深めた）。

地区の宮司で公民館長のM氏が神事を執り行い、玉串奉納、来賓祝辞（深谷市教育長、渡部潤一先生、エンゼルの丘理事長、今泉自治会長）と続き、山崎さんが感謝の言葉を述べた。

記念碑はステンレス製で、説明板などに使用される比較的安価なものだ。「宇宙からの使者・岡部隕石落下の地」という題字は山崎さん本人による揮毫。山崎父子の写真や落下経路、隕石の実物大ブロンズレリーフもあしらわれ、裏面には支援者の名前が刻まれている。

例の塩ビ管の真上には標石を置いた。座標までピッタリ落下地点にある隕石の記念碑は、全国的にも珍しいだろう。



完成した「岡部隕石落下の地」記念碑



除幕式

## 6. イベント開催

同日午後、落下地に近い埼玉工業大学で記念イベントを開催した。

会場提供の引き替え条件として、大学側から強く要請されたのが、「(将来入学する可能性のある)子どもたちが楽しめるイベントにしてほしい」ということだったので、(株)フィールド・スタディのモバイルプラネタリウムで子ども向けのオリジナル番組「いん石のふる里」を上映、星の手帖社の協力で天文グッズや隕石の販売コーナーも設けられた。

周辺地域の小中高校には、あらかじめ大量の告知ポスターとチラシを配った。クラウドファンディングの期間中、埼玉県議会の質疑応答で岡部隕石について取り上げていただき（小川真一郎議員）、「イベントにはぜひ協力したい」という県教育長のお墨付きを得ていたことが、ポスター配布の際ひょうに役立ち有り難かった。

メイン会場では記念講演会が行われた。山崎



塩ビ管の上には標石

さんのインタビューから始まり、60年前の岡部から未来の宇宙へ広がっていく…という形式の講演会で、約400人が来場した [6]。

### 岡部隕石落下60年 記念講演会 「岡部から太陽系へ」プログラム

- あの日、あのとき——山崎政雄さんに聞く  
山崎政雄（岡部隕石発見者）／飯島裕
- 60年ぶりの新証言——落下経路の再検討  
佐藤幹哉（日本流星研究会）
- 落下が目撃された貴重な隕石——岡部隕石の価値  
米田成一（国立科学博物館理化学グループ長）
- 隕石はどこからやってくる？——隕石の成分  
三河内岳（東京大学総合研究博物館教授）
- 岡部隕石が導く宇宙——岡部隕石と太陽系  
渡部潤一（国立天文台副台長）

渡部潤一先生のスケジュールを押さえた時点で大船に乗った気ではあったが（なにしろ2年先まで週末の予定が埋まっているというのだ）、隕石の専門家が顔を揃え、さらに県内で別の講演に出ていた山岡均先生（国立天文台広報室長）まで司会に駆けつけてくれるという、予想以上の豪華イベントとなった。

当初の目的だった隕石の里帰りも、米田先生の責任で当日持ち出すという形で果たすことができた。“本物の”岡部隕石は会場内を手渡しで回覧され、来場者は地元ゆかりの隕石を間近に見て、興味深そうにスマホで撮影していた。

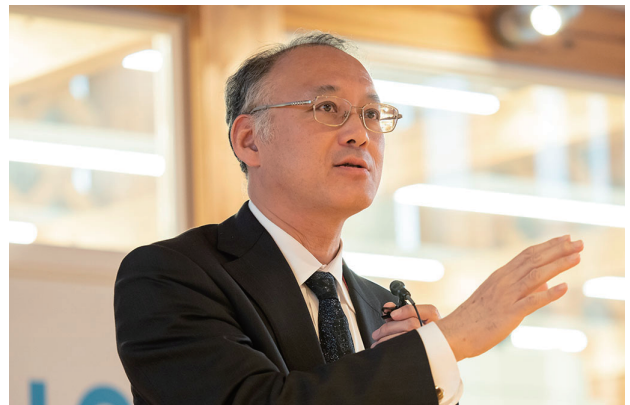
米田先生の穏やかでユーモア溢れる語り口は分かりやすいと評判だったし、三河内先生が紹介した南極の動画では、氷の上に転々と散らばる隕石をスノーモービルで集めるようすに驚きの声が上がった。渡部潤一先生には大トリを務めていただいたのだが、専門家が何人も喋った後だとさすがに話すことがもう残っていない…と、直前までパワポを修正していたのは誠に申し訳なかった。



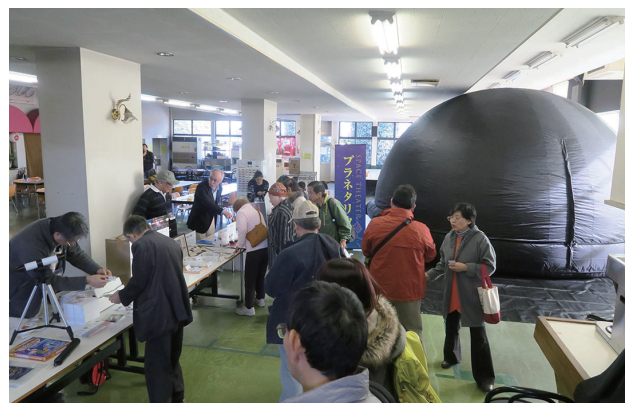
記念講演会（埼玉工業大学にて）



60年ぶりに隕石を手にする山崎さんと米田先生



渡部潤一・国立天文台副台長



プラネと物販（フィールド・スタディ提供）

最後はプレゼント抽選で、1等が当たった男性が「茨城から来た“オカベ”です」と挨拶すると、会場は歓声に包まれた。

マニアックと言えるほど隕石づくしのイベントとなったが、熱心にメモをとる人や「久しぶりに勉強してとても楽しかった」という人もいて、地域の方々に有意義なイベントができたことを嬉しく感じた。休日にもかかわらず、会場設営や車の誘導などを手伝ってくれた埼玉工業大学の学生たちにも、改めて感謝を伝えたい。

## 7. 60年ぶりの新事実

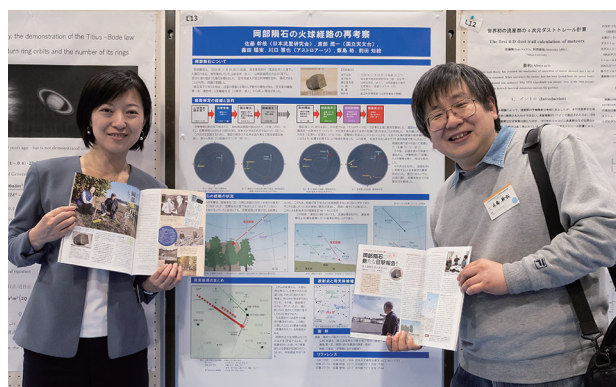
一連の活動の中では、新たな発見もあった。

岡部隕石は落下当時、青空に白い尾を引く火球（隕石雲）が関東各所で目撃され、村山定男氏のもとに何件か目撃情報が寄せられている。そのうち方位高度まで報告したのが2人。一人は神奈川県川崎市の箕輪敏行氏（川崎天文同好会の創設者）で、もう一人が長野県諏訪市の藤森賢一氏である。藤森氏に改めて取材したところ、それまで「南から北へ」とされていた落下経路に矛盾があることが判明した [2]。

佐藤幹哉氏に相談すると、どうやら測量方法に南基準と北基準があって数値が合わないのを、ベテラン箕輪氏の報告に合わせて藤森氏の数値を読みかえたのが原因ではないかという [7]。



落下経路を再考察



佐藤幹哉氏と（日本天文学会）

当時の記録を洗い直すと、火球が「北西から南東」へ飛来した可能性が浮上した。

以上を『星ナビ』に掲載したところ、59年ぶりに新たな目撃者が現れた [3]。伊勢崎天文同好会（群馬県）の神倉己由氏が、高校生の時に火球を目撃したという。落下地点の岡部から距離が近すぎるなどの問題点はあったものの、この目撃証言により、火球の経路を「北西から南東」とほぼ結論付けることができた。

この検証は佐藤幹哉氏が2018年春の日本天文学会で発表 [4]、これを受けて、上野の国立科学博物館内にあるデータベース端末の内容も修正された。これらは私たちの活動の大きな成果の一つと考えている。

余談だが、藤森氏は長年にわたる太陽観測でアマチュア天文界では高名な方である。岡部隕石落下時は23歳、山崎さんや神倉氏同様、畑仕事をしていた。天文学を勉強したかったが家を継ぐために上京を諦め、「地元で何かできる



藤森賢一氏

神倉己由氏（中央）

ことを」と始めたのが太陽観測だったそうだ。就職後も昼休みには必ず帰宅して観測を続け、旅行で家を空けたこともなかったという。自分の代わりに息子には思う存分科学を勉強してほしいと理系大学への進学を勧めたが、親の意に反して音楽家になってしまった…というエピソードが、親子それぞれの時代を反映しているようでじつに面白かった。

## 8. まとめ

目の前に隕石が落ちてきた山崎さんと、その飛来を遠くで目撃した藤森氏が60年の歳月を経て出会ったように、時を超えた「人の縁」を実感することも多かった。伊勢崎天文同好会のメンバーと山崎さんの父親同士が釣り仲間だったとか、思わぬ人が飯島と同じ熊谷高校の出身だったとか。私自身、古い知り合いとの驚くような再会もあった。

そんな繋がりの中で、昭和50年（1975）に



8ミリ映像から、落下地点を案内する山崎さんと少年時代の田嶋健一氏（本人提供）

岡部隕石を取材した8mmフィルムも見つかった。岡部中学校の理科教師だった田嶋嶽氏の遺品で、息子の健一氏に提供いただいたものだ。録音テープは惜しくも失われていたが、約10分間の貴重な映像は記念イベントで上映された。懐かしい岡部の風景に、30代当時の山崎さんや在りし日の母の姿も映り、花束を持って駆けつけた山崎さんの姉・ノブさんも嬉しそうだった。

2021年現在、記念碑には地域の小中学生や高校の地学部などが見学に訪れている。都合が合えば、山崎さん本人の解説付きだ。資金もまだ少し残っているので、記念碑の周囲に車よけの柵を作る計画などを進めている。

「深谷市の新しい名所として、“昔この場所でこんなことがあったんだ”と、子どもたちが科学や宇宙に興味をもつきっかけになってくれれば嬉しい」と山崎さんは語る。

クラウドファンディングの副題として掲げた「世代を超えた地域交流」がますます盛んになることを心から願っている。

## 文献

- [1] 銀ノ星163「むじな山に降った星」  
(飯島裕／星ナビ2016年12月号)
- [2] 古天文よりみち紀行7「岡部隕石を伝えたい」  
(前田知絵／星ナビ2017年5月号)
- [3] 岡部隕石に新たな目撃者・落下経路を再々考察する (佐藤幹哉／星ナビ2017年9月号)
- [4] 岡部隕石の火球経路の再考察  
(佐藤幹哉／日本天文学会2018年春季年会)
- [5] 岡部隕石CF支援者募集中！  
(前田知絵／星ナビ2018年10月号)
- [6] 岡部隕石、60年ぶりに里帰り  
(前田知絵／星ナビ2019年2月号)
- [7] 「岡部隕石の実経路について」  
(小林弘忠／日本天文研究会報文／1959)

前田知絵